

新潟大学 正会員 鈴木 哲
住宅都市整備公団 正会員 ○ 小野沢 透

1. モニュメントの高さについて

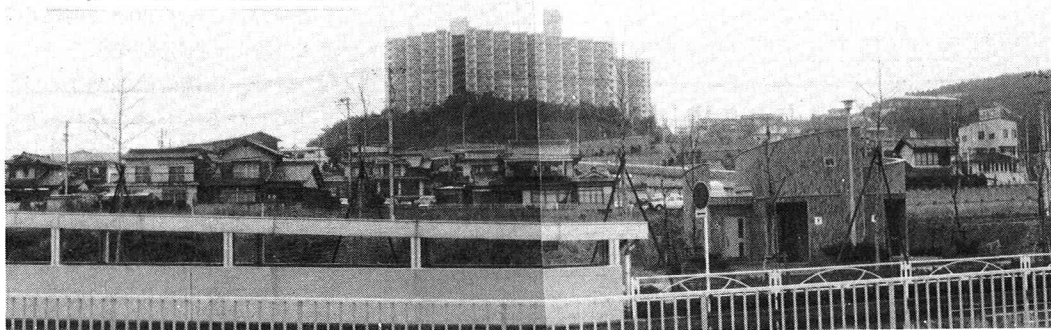
高蔵寺ニュータウンの建設は、現在終束をむかえている。国鉄中央線高蔵寺駅前に、記念公園が計画されており、そのモニュメントの高さを検討してみた。

写真1は、国鉄中央線高蔵寺駅のプラットフォームから記念公園予定地を写したものである。予定地の背後に、高座台団地の高層ビルがそびえており、これが実質的な高蔵寺ニュータウンの象徴となっている。これに対抗し匹敵するモニュメントは、巨大なものにならざるを得ず、無駄である。高層ビルをひきたたせ、ニュータウンを象徴し、かつ、記念公園のモニュメントという性格上、来園者にみられるだけでなく、周辺か



図1：
高蔵寺ニュータウンと
近隣公園

写真1：記念公園予定地



らも眺望できるもの——少なくとも、中央線車窓や高蔵寺駅プラットフォームから眺望でき識別できる大きさにしたい。

図2は、駅プラットフォームからの眺望である。記念公園まで約130Mある。駅の線路わきの広告板のため、仰角

図2：高蔵寺駅からの眺望

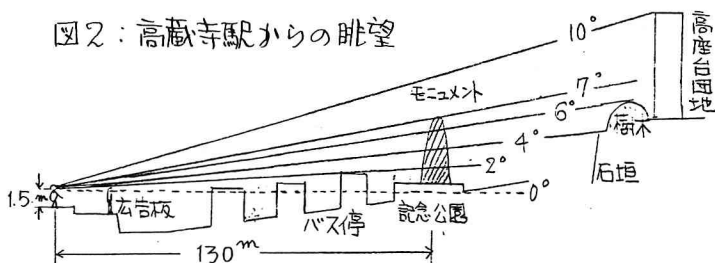


表 1

モニュメントの先端の仰角	モニュメントの高さ (A)	プラットフォームから見える部分 (長さ) (B)	見える部分の割合
4°	9.1m	4.6m	51%
5	11.4	6.9	61
6	13.7	9.1	66
7	16.0	11.5	72

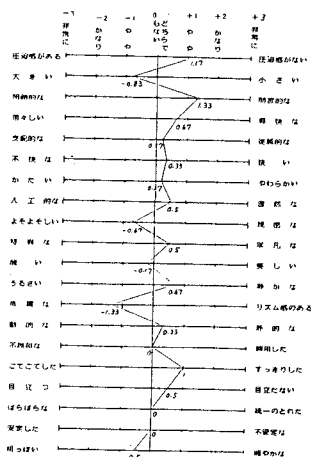
た。メルテンスによれば、建物を全体として鑑賞するには仰角27°が必要としている。1.6Mのモニュメントを公園内で鑑賞すると仰角27°の距離は、3/Mとなり、公園の鑑賞域はせまくなる。しかし、建物のように横に拡がったモニュメントでは、一望するのにはなれる必要があるが、塔のように横幅がなく、視線を自然に上に導くものであれば、もっと近くからの鑑賞が可能であり、その方がむしろ「高さ」を強く感じさせ効果的である。

藤山公園 (14)

A=7.4M

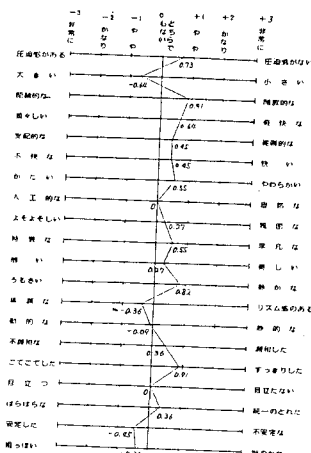
高森公園 茅葺 (14)

A=11.7M



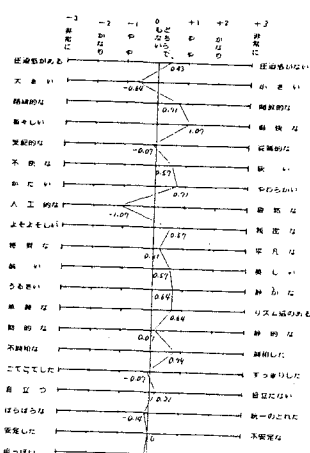
石尾公園 (14)

A=7.8M



石尾公園 茅葺 (14)

A=7.8M



2°以下は見えない。高座台団地の最高所の仰角は10°、樹木は6°、石垣は4°である。高座台高「ビルと同じ高さ(仰角10°)のモニュメントにするには、高さが2.3Mとなり公園の面積からいって大きすぎる。6°以下だと、樹林より仰角を1°高くするとモニュメントの高さは1.6Mとなる。駅からみた場合、この程度の高さが望ましいと判断し

以上から塔的なモニュメントなら、先端の高さは1.6M程度、幅のあるモニュメントであればもっと低くすべきであろう。

2. 近隣公園の景観

高蔵寺ニュータウンには9ヶ所の近隣公園がある。その中で、自然公園的な環境にあり面積も広くセンター公園的な高森公園、大きな池を中央に持つ新地公園、それに団地わきにある近隣公園として藤山公園と石尾公園をえらび、現地で景観・環境評価に関する20項目にわたるSD調査を行った。また、新潟大学工学部の学生に上記公園の全周写真(写真2・3・4参照)をみせ、同様にSD調査を行なった(高森山公園は大きすぎて写真でとらえにくいので、写真によるSD調査はしなかった)

結果は、表2～8に示した。

現地SD調査でみると、評価尺度の平均が、/または-/をこえる項目が一番多いのは高森山公園で、圧迫感なし、開放的、快い、静かな、すっきりした、という肯定的項目であり、垂直線と評価尺度でかこまれた面積も一番大きく

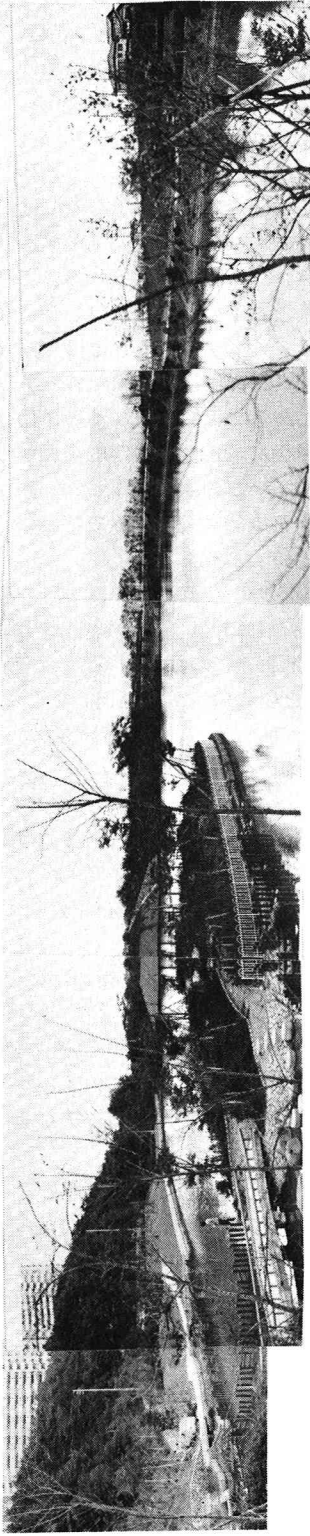


写真2：新池公園（部分）

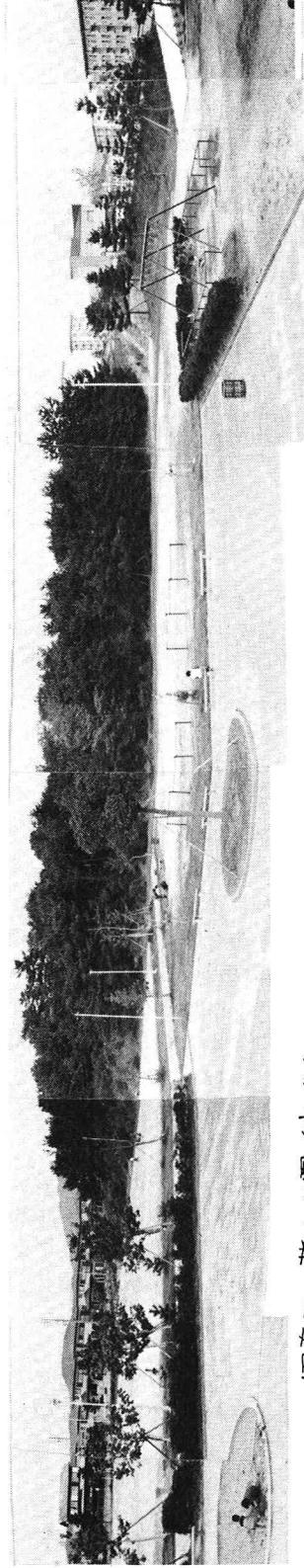


写真3：藤山公園（部分）

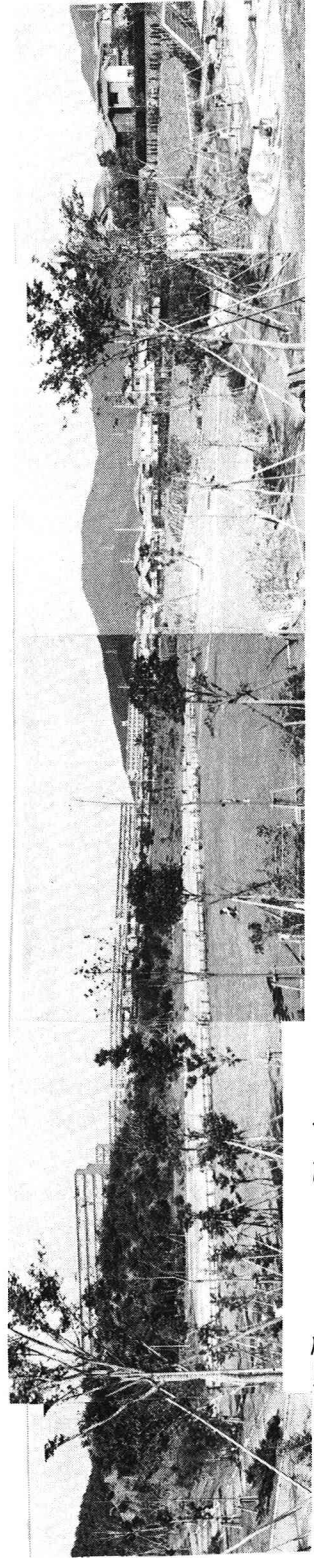
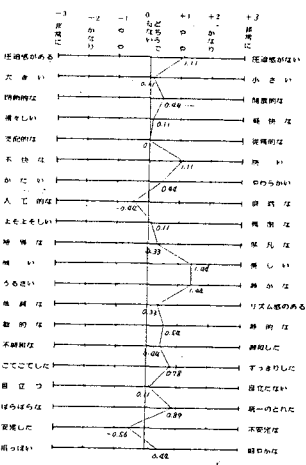
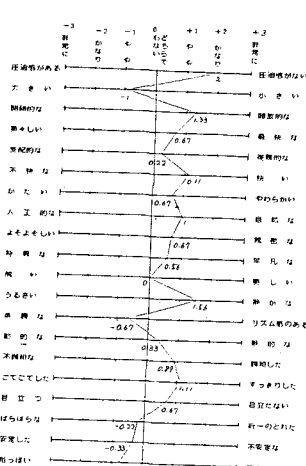


写真4：石尾公園（部分）

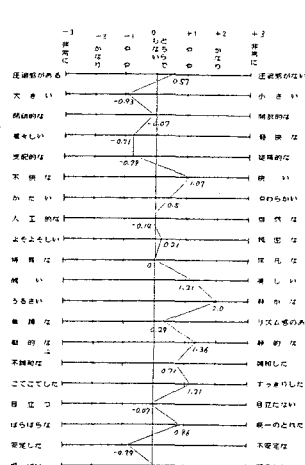
新池公園 (9.2) A=8.736



高森山公園 (9.3) A=12.310



新池公園 写真 (10) A=11.843



12.3 / であった。ニュータウンの中心の高台の上にあり、自然が多く残っていて、広々としている点が評価されたものと考えられる。第2は新池公園で、美しい、静かな、快い、が / をこえ、面積も9.736で第2位である。池が中央にあり、景観的環境的な評価がされたものと考えられる。石尾公園と藤山公園の面積は、順に7.386、7.463とほぼ同じで低く、評価尺 / (または - /) をこえるのは石尾になく、藤山に、単調な、という否定的項目が / つある。この点からみると、両者は、景観的環境的にみて特色がないといえよう。

写真によるSD調査をみると、現地調査のパターンとよく似ていることがわかる。(藤山公園で、「人工的」写真では「自然な」とわかれた点は違う) 写真による調査でも、現地調査にかなり似ることがわかった。新池公園では「すっきりした」という項目が評価尺 / をこえ主として肯定的項目によってかこまれた面積も / / .843となり、3表のうちで最大となっている。藤山公園の面積も / / .795と石尾公園より大きい、評価尺 / (または - /) をこえる項目が、人工的、単調、粗っぽい、平凡な、目立たない、という5つの否定的な項目であり、肯定的項目は「すっきりした」という / つである。よってこの面積は否定的な項目の大きさで考えることができる。石尾公園には、樹林帯も広く、その中に散策路や休憩所や腰掛けが多いが、藤山公園は散閑として散策路や休憩所も少なく、平凡である。周辺部に変化や魅力をもたせる計画が望まれる。

「あなたがよく出かける公園はどこか」というアンケート調査では高森台では54%が高森山公園を、石尾台では65%が石尾公園をあげているのに、藤山台では6%しか藤山公園をあげていなかった。この点からも地域のセンター公園としての魅力を持たせる工夫が必要であろう。

新池公園はSD調査では高い評価を得ており、池のある唯一の公園として他地区からの利用が多いと考えたが、実際は、少なかった。これは、新池公園の西側に4車線道路があって、そちらの住居地から隔てられていること、東側は崖の上に高座台団地があり、利用には急坂を上下しなければならないことなどがあって、利用しにくいとめと考えられる。住居から気軽に接近できる方法を考える必要がある。

3. 児童公園に対する検討

高蔵寺ニュータウンには、児童公園が / 3ヶ所あり、面積は43650M²で、平均 / 公園の面積は、3357M²である。主たる利用者の児童 (小学生) の行動実態や公園の利用状況、公園に対する希望を調査した。

1) 調査方法と内容

(1) アンケート調査：ニュータウンで最古の藤山台小学校に依頼し、 / ~6 学年までの各 / クラ

スを調査した。

2) 結果と考察

(1) 児童の行動範囲と公園の配置・広さについて

学年	公園	学校	その他
1	67.5%	25.0%	7.5%
2	76.1	23.9	0
3	58.2	31.3	10.5
4	64.4	17.8	17.8
5	58.3	35.4	6.3
6	65.8	22.0	12.2
平均	64.5	26.5	9.0

表-2 小学生が最もよく遊ぶ場所

学年	広い	せまい	適当
1	84.6%	12.8%	2.6%
2	29.4	41.2	29.4
3	56.4	10.3	33.3
4	15.4	57.7	26.9
5	40.7	14.8	44.4
6	13.3	56.7	30.3
平均	43.1	30.2	26.7

表-3 広さに対する意識

約65%の児童がよく遊ぶ場所として公園をあげている。学校が25%で、両方で90%となる。遊び場所は、ほぼ提供されているといえよう。また、遊び場所への移動手段として「歩く」とした者が80%を越えていることから、公園の全体的配置及び数がほぼ適当であると考えられる。次に「なぜそこで遊ぶか」というアンケートに対して

は、「近いから」が60%で最多、ついで「友達がいるから」という理由になり、「広いから」「遊具があるから」は極めて少なかった。即ち「遊ぶ」ということは、「近くの友達」と「遊ぶ」ことを意味しているようである。

よく遊ぶ場所の広さについては、低学年では「広い」と感じ、高学年になるにつれて「せまい」と感じている。これは、身体的な成長と共に、遊びの質が変わり、広さを要求するためにおこってくる変化と考えられる。

公園数を減らして/ヶ所当りの面積を増すべきか、あるいはその逆かは、検討を要するが、前述のように、「なぜそこで遊ぶか」の理由から考えると、統一するより分散が好ましいように考えられる。

(2) 児童が公園で何をして遊ぶか

活動の内容が非常に多様にわたるため、公園の利用実態という面からとらえて、次の4種類に分類した。

学年	①	②	③	④
1	61.3%	2.3%	9.1%	27.3%
2	77.5	7.5	10.0	5.0
3	42.3	21.8	29.5	6.4
4	27.3	38.6	31.8	2.3
5	3.7	48.2	40.7	7.4
6	33.3	43.6	23.1	0
平均	43.0	25.0	23.9	8.1

表-4 公園の利用内容

利用度が急激に大きくなってゆくことがわかる。広さを要求する遊びに変えることは、児童の人間関係・友人関係がひろがっていき、社会性にめざめていく(スポーツ精神を養う)ことでもあり好ましいことである。

以上から、幼児公園には遊具を備え、児童公園ではそれにプラスして広い広場を提供することが必要であろう。

4. おわりに

幼児や児童に対する施設はほぼ整備されてきた。今後は若者や、大人たちや、老人たちが楽しく暮らしていけるような施設を考えていく必要があろう。

①遊具施設使用による利用。

②スポーツ A (野球、サッカー、ドッチボールなどある程度の人数的のもとにゲームとして行うスポーツ)

③スポーツ B (②の分類に入らない運動、キャッチボール、2~3人で行うボール投げなど)

④その他(休息、散歩、虫とりなど)

この表をもとに、遊具施設の利用割合と広場の利用割合を求めると図-1となる。

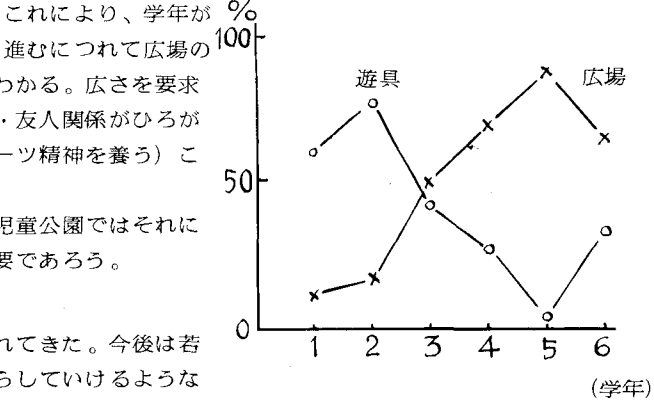


図-1 公園の利用内容